

令和 5 年度 第 4 回 宝塚市地域公共交通協議会 議事要録

開 催 令和 6 年（2024 年）3 月 27 日水曜日 14 時 00 分～15 時 30 分
形 態 リモート会議
議 事 議案第 1 号（報告事項）
宝塚市立病院等への移動手段確保に向けた令和 6 年度実証実験の実施について

議案第 2 号（報告事項）
A I オンデマンド交通の導入に向けた令和 6 年度実証実験の実施について

その他（報告）
令和 6 年度阪神北県民局主要施策（案）

出席委員 16 名（別紙参照）

■開会（会議の成立等）

- 委員 21 名の内 14 名の出席。協議会規約第 8 条に基づく過半数の出席要件を満たすため、会議成立。
- 会議については、公開とする。

■議事

議案第 1 号（報告事項）

宝塚市立病院等への移動手段確保に向けた令和 6 年度実証実験の実施について

<資料>

- ・宝塚市立病院等への移動手段確保に向けた令和 6 年度実証実験の実施について（報告）

<議案説明>

事務局 ： 本市でも人口減少や高齢化が進展しており、公共交通利用者数の低下による交通事業者の収益が悪化しているほか、運転手不足の深刻化、さらには新型コロナウイルス感染症の影響等により公共交通事業者を取り巻く環境は非常に厳しくなっています。

市内を運行する路線バス事業者は、地域の交通を維持するために令和 4 年 4 月に利用状況に応じた路線改編を実施し、一部地域の方々は宝塚市立病院への路線バスが減便となりました。このような課題解決を図るため、宝塚市立病院や福祉施設、公共施設等への移動手段の確保を検討したいと考えています。つきましては、委員の皆様は令和 6 年度の市の事業として、宝塚市立病院等への移動手段の確保に向けた実証実験の実施についてご報告いたします。

対象地区・・・・・安倉地区、山本地区

スケジュール・・・・

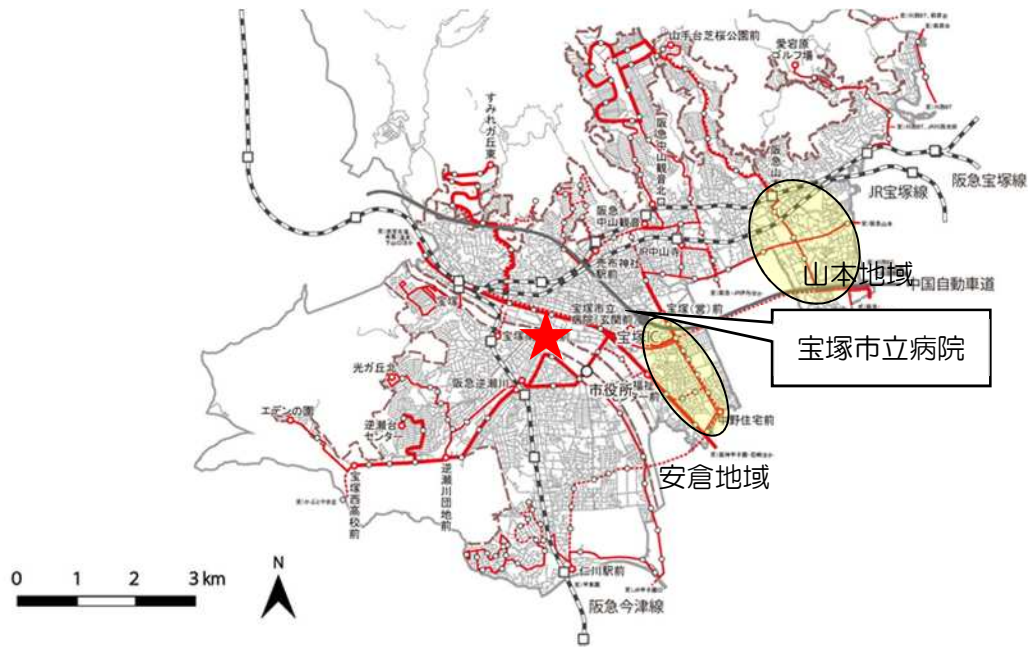
		令和6年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
山本地区	事業者、地域、市協議		事業者、地域、市協議										
	準備、広報等				準備、広報等								
	実証実験						実証実験						
	分析・検証								分析・検証				
安倉地区	事業者、地域、市協議		事業者、地域、市協議										
	準備、広報等					準備、広報等							
	実証実験						実証実験						
	分析・検証									分析・検証			

※不測の事態等が生じれば想定スケジュールから変更する可能性があります

その他・・・・ 3月4日（月）に公募型プロポーザルの企画提案プレゼンテーションを行い、同日、公正な審査を行った結果、以下のとおりとなりました。

- 安倉地区 株式会社ウェルビーイング阪急阪神
- 山本地区 阪急タクシー株式会社

今後、上記事業者と運行内容等を協議します。詳細な運行計画等については、本協議会にて追ってご報告させていただきます。



委員質疑

井上委員：ルートについて、どう通って行くのか示されていないが、赤線を全て通るのか？もしくは今までと違うエリアも通るのか？

事務局：赤線については既存の路線バスのルートであり、今回のルートについては運行形態も含めこれから検討していく。

井上委員：まだ決まっていないという事か？

事務局：その通り。つめた内容については5、6月くらいに報告させていただきたい。

土井会長：事業者についてウェルビーイングという会社だが、どういった会社なのか？

事務局：主に介護事業を営んでいる会社である。今回、通常時に介護で使われている車両の空き時間を利用して市立病院への輸送を行う計画である。

上坂委員：詳細は決まっていないとの事だが、介護事業者の空き時間の車両を使う場合、介護業務の時間と病院への通院に必要となる時間が重なるのではないかと思う。その点は大丈夫なのか？

事務局：そういう懸念はあると思うが、今回、市立病院への通院を主体として考えているため、できる限り朝の通院に対応できるように調整していく。

（他に質疑無し、報告終了）

議案第2号（報告事項）

A I オンデマンド交通の導入に向けた令和6年度実証実験の実施について

<資料>

- ・A I オンデマンド交通の導入に向けた令和6年度実証実験の実施について

<議案説明>

事務局：売布山手地域は、平成14年3月より路線バスの運行を開始しており、市が補助金を交付することで路線バスを維持確保し、地域の生活を支える移動手段となっています。昨今の社会情勢の影響を受け、交通事業者の経費が増加していることや新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少していること等から、市の補助額は増加傾向にあります。今後、さらに高齢化が進展することや自動車免許の返納者の増加により、公共交通の必要性は継続することが予想されます。

令和4年4月に実施された路線改編は、売布山手地域においても同様に行われ、これを契機に地域との協議が再開されました。地域によるアンケート結果から、乗りたい時間にバスがないといった声や、夜の増便を望む声などがわかりました。地域、事業者、市が定期的な会議を開催した結果、売布山手地域で阪急バスによるA I オンデマンド交通の実証実験を検討しています。A I オンデマンド交通に切替えることができれば、小型車両の運行により、きめ細やかな運行が可能となり、隣接する清荒神エリアへの乗り入れについても検討できます。地域の

利便性の向上とA Iの活用による運行の効率化を図られるかをみるために段階的なA Iオンデマンド交通の実証実験を実施したいと考えています。

つきましては、委員の皆様にも令和6年度の実証実験の実施についてご報告いたします。

※A Iオンデマンド交通：従来の定時定路線型の路線バスとは異なり、利用者の予約に対してA Iによる最適な運行ルートを設定し配車をリアルタイムで行い、運行エリア内のミーティングポイント（乗降場所）であれば、どこでも乗降が可能な交通

A Iオンデマンド交通のメリット・デメリット

メリット	デメリット
・バス停の増加	・予約の手間がかかる
・予約型のため乗りたい時間にバスに乗車できる	・運賃の値上げの可能性有
・待ち時間の短縮	
・小型車両による運行により道路が狭隘なため運行できなかった地域への運行が可能となる	

A Iオンデマンド交通導入までのスケジュール（案）

令和6年度 路線バスと並行して実証実験の実施

令和7年度 路線バスを休止して実証実験の実施

令和8年度 路線バスからA Iオンデマンド交通への切り替え

令和6年度スケジュール（案）

	令和6年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業者、地域、市協議		事業者、地域、市協議										
準備、広報等						準備、広報等						
実証実験									実証実験			
分析・検証										分析・検証		

※不測の事態等が生じれば想定スケジュールから変更する可能性があります

5 地域との協議経緯

年度	月日	内容
令和4年度	8月	減便を受け、地域主体のアンケート調査を実施
	11月25日	売布循環線意見交換会
	12月19日	第1回売布地区公共交通対策会議
	1月31日	第2回売布地区公共交通対策会議
	3月10日	第3回売布地区公共交通対策会議
令和5年度	10月31日	第1回売布地区公共交通対策会議
	12月6日	第2回売布地区公共交通対策会議
	1月30日	第3回売布地区公共交通対策会議
	3月7日	第4回売布地区公共交通対策会議

委員質疑

(バス協会からの事前質問)

■売布山手地域のA I オンデマンド交通導入につきまして、タクシー事業への影響はどの程度でしょうか。また、バス運転手不足が言われていますが、オンデマンドや夜間運行、運行地域拡大等で利便性があがり利用者が増えた場合にも、対応可能でしょうか。

また、令和8年度に、A I オンデマンドに切り替えとありますが、決定事項でしょうか。

事務局：A I オンデマンド交通の導入により、タクシー事業にどの程度影響が出るかは実施してみないことにはわかりませんが、現在、バス事業者同様、タクシー事業者につきましても運転手不足が深刻化しており、売布神社駅のロータリーに待機している車両はほぼない状況で、特に需要の高い宝塚駅等にタクシーが集中しています。また、タクシー事業者様より、売布山手住宅地域から売布神社駅への送迎予約についてもほとんどないと聞いています。今後、実証実験の状況については、協議会にて随時報告させていただき、タクシー事業者様のご意見を伺いながら進めていければと思います。

また、オンデマンド交通で起用する運転手については、運行事業者である阪急バス株式会社と定期的な協議を重ねて、検討したいと思います。

切り替えについてですが、現時点での決定事項ではありません。A I オンデマンド交通への切り替えを目指していますが、令和6年度、令和7年度の実証実験を踏まえて、地域住民、事業者と共に決定していきたいと考えています。

土井会長：段階的にA I オンデマンドにシフトしていくという計画だが、ネットワークとしては新たな地域への乗り入れを含めて既存のネットワークは維持していくという事を考えているのか？

事務局：A I オンデマンドに切り替えた際は現在の定時定路線は無くしていくように考えている。

令和6年は既存路線と並行運行して実証実験を行い、令和7年は既存路線を一時休止してより本格運行に近い状態で実験を行いたいと考えている。その内容をふまえて令和8年に本格運行を行った時は、現在の路線を無くしたうえで運行を進めたいと考えている。

土井会長：データの分析については事業者が行うのか、あるいは特別なコンサルタントを使うなどの事も考えているのか？

事務局：特にコンサルタントを入れることは考えてはいないが、バス会社やA I オンデマンドを構築しているシステムの会社、地域と話し合いながら検証していきたいと考えている。

土井会長：既存のA I オンデマンドシステムはそれほど賢いものではないので、何を優先して何を目的にしていくという事が重要となっていくので、その議論もこの協議会で行っていききたいと思う。

井上委員：ここで使われる小型車両とは、どういったものを使うのか？車いすごと乗れるような物を想定しているのか？

また、A I オンデマンドの受付は、何処でどう処理を行うのか？

事務局：車両については乗客8人乗りの規模の車両を考慮しており、車いすへの対応は現状考えていない。

受付については携帯のアプリケーションや電話での受付を想定しており、事前に乗車場と降車場を決めて予約していただく。

井上委員：車両については、やはり今後の事も考えてバリアフリー対応にしていかなないと実証実験において、そういった対象者を排除してしまうと利用者の減少になっていくのではないかと思う。今後、検討していただけるか？

事務局：ご意見いただいた内容を持って、今後、他の地域の事例も参考にして事業者とも検討していきたいと思う。

井上委員：車いす対応の車両の導入についてコストがかかるようであれば市が補助するなどして、誰でも使えるようにしていただきたいと思う。

バス協会：バス停、ミーティングポイントについて具体的にどういった所を想定しているのか？

事務局：ミーティングポイントの場所については利用者が普段に歩いていける距離、場所という事でゴミステーションの場所などを想定している。

バス協会：A I オンデマンド運行は乗車するにあたり予約が必要となるが、時間調整というか予約をした時間とずれるという事で利用者側も少し妥協するようなことも有るといった事を想定しているのか？

事務局：乗降車等の時間のずれについてはジャストの時間ではなく、予約の際にある程度時間に幅を持たせた形を示すことになる。

バス協会：今回の実証実験運行を企画するにあたって参考としたA I オンデマンド運行が他の市町村であったのか？有るのであれば、そこでどのような問題があったのかなど把握しているのか？

事務局：参考にした事例については豊能町や奈良県広陵町でA I オンデマンド運行の実証実験や本格運行を行っているので、こちらに視察等を行い現地での説明を受けている。

その中で豊能町においては実証実験の運行について当初は無料で運行していた。乗車率も高かったが次の段階の実証実験において有償での運行になった時、利用者の減少があった等の話を聞いた。その為宝塚市においても利用者の減少を少なくするための手立てを考えなければならないと思っている。

土井会長：事務局より他に報告は無いか？

事務局：宝塚土木事務所企画調整担当より報告事項が有る。

宝塚土木：【別紙資料について説明】

（質疑無し 報告終了）

令和5年度第4回 宝塚市地域公共交通協議会 出欠表（敬称省略）

	協議会 委員/オブザーバー	氏 名	選出区分	所属組織・役職等	出欠 (出席○、欠席×)	代理・随行出席者
1	委員	どい けんじ 土井 健司	学識経験者	大阪大学教授	○	
2	委員	のづ としあき 野津 俊明	公共交通事業者等	阪急バス株式会社 自動車事業本部営業企画部部长	○	小淵 一毅（随行）
3	委員	おか しんじ 岡 伸治	公共交通事業者等	阪神バス株式会社 経営企画部部长	×	
4	委員	はなだ たかあき 花田 崇昭	公共交通事業者等	阪急タクシー株式会社 営業企画室 室長	○	前川 康男（随行）
5	委員	しもはら ひろし 下原 裕史	公共交通事業者等	株式会社フクユ 営業部 部長	×	
6	委員	あせ こうじ 阿瀬 弘治	公共交通事業者等	阪急電鉄株式会社 都市交通事業本部沿線まちづくり推進部部长	○	
7	委員	ばんじ まさあき 絆地 真晃	公共交通事業者等	西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部・兵庫支社課長代理	○	
8	委員	しんやしき しょういち 新屋敷 昭一	公共交通事業者等	公益社団法人兵庫県バス協会 専務理事	○	吉本 道明（代理）
9	委員	ひらお ぶんいち 平尾 文一	公共交通事業者等	一般社団法人兵庫県タクシー協会 副会長	×	
10	委員	ひらお りょう 平尾 亮	労働組合	兵庫県交通運輸産業労働組合協議会 阪神地域協議会 宝塚ブロック議長	×	
11	委員	なかにし かつゆき 中西 克之	国	神戸運輸監理部総務企画部 企画調整官	×	
12	委員	すもと たかゆき 数元 崇之	公安委員会	兵庫県宝塚警察署交通課長	○	岸田 直也（随行）
13	委員	やまだ ひろし 山田 弘	道路管理者	兵庫県宝塚土木事務所 所長	○	上田 直樹（代理）
14	委員	いけざわ のぶお 池澤 伸夫	道路管理者	宝塚市都市安全部 部長	○	
15	委員	こてら としみつ 小寺 寿充	自治体	宝塚市 技監	○	
16	委員	こいえ けんじ 古家 健志	自治体	宝塚市企画経営部 部長	○	
17	委員	うえさか かずこ 上坂 和子	市民	高齢者枠	○	
18	委員	いのうえ きよし 井上 聖	市民	障害者枠	○	
19	委員	あおき はるみ 青木 晴美	市民	南部市街地枠	○	
20	委員	むらき ちあき 村木 千秋	市民	南部市街地枠	○	
21	委員	なかしま しんや 中嶋 真也	市民	西谷枠	○	
22	オブザーバー	にった ひろふみ 新田 博史	自治体	兵庫県交通政策課 副課長兼地域交通班長	×	
	事務局	中村 修		宝塚市都市安全部建設室 室長	○	
	事務局	村瀬 弘次		宝塚市道路政策課 課長	○	
	事務局	宮田 順吉		宝塚市道路政策課 係長	○	
	事務局	中川 朋美		宝塚市道路政策課 係員	○	
	事務局	尾崎 真一		宝塚市道路政策課 係員	○	

※協議会委員 21名

※協議会オブザーバー 1名

出席委員	16名	うち代理出席委員	2名
欠席委員	5名		